

## 第 38 期 貸借対照表

(2023 年 3 月 31 日現在)

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>資産の部</b>		<b>負債の部</b>	
<b>流動資産</b>	<b>27,134</b>	<b>流動負債</b>	<b>4,927</b>
現金及び預金	16,689	未払金	1,363
営業未収金	7,004	未払事業所税	30
商品	5	未払消費税等	289
単行本在庫調整引当金	△0	未払法人税等	432
未成業務支出金	3,382	前受金	880
前払金	66	預り金	141
その他	0	賞与引当金	1,743
貸倒引当金	△12	リース債務	4
		受注損失引当金	40
<b>固定資産</b>	<b>3,616</b>	<b>固定負債</b>	<b>3,081</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>398</b>	リース債務	9
建物附属設備	270	退職給付引当金	2,690
器具備品	114	役員退職慰労引当金	101
リース資産	12	資産除去債務	279
<b>無形固定資産</b>	<b>330</b>	<b>負債合計</b>	<b>8,008</b>
電話加入権	21	<b>純資産の部</b>	
ソフトウェア	308	<b>株主資本</b>	<b>22,742</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>2,888</b>	<b>資本金</b>	<b>2,060</b>
投資有価証券	762	<b>利益剰余金</b>	<b>20,682</b>
関係会社株式	109	<b>利益準備金</b>	<b>54</b>
差入保証金	409	<b>その他利益剰余金</b>	<b>20,627</b>
固定化営業債権	7	研究基金積立金	1,050
繰延税金資産	1,595	システム投資積立金	350
その他	10	別途積立金	2,500
貸倒引当金	△7	繰越利益剰余金	16,727
		<b>純資産合計</b>	<b>22,742</b>
<b>資産合計</b>	<b>30,751</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>30,751</b>

## 第 38 期 損益計算書

(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

科 目	金 額
<b>売上高</b>	<b>21,955</b>
売上原価	17,980
<b>売上総利益</b>	<b>3,975</b>
販売費及び一般管理費	2,091
<b>営業利益</b>	<b>1,883</b>
<b>営業外収益</b>	<b>111</b>
受取利息及び配当金	35
その他の収益	76
<b>営業外費用</b>	<b>9</b>
その他の費用	9
<b>経常利益</b>	<b>1,985</b>
<b>特別損失</b>	<b>546</b>
減損損失	365
投資有価証券評価損	181
<b>税引前当期純利益</b>	<b>1,438</b>
法人税、住民税及び事業税	697
法人税等調整額	△161
<b>当期純利益</b>	<b>902</b>

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

- 商品 : 評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切り下げの方法)  
評価方法は単行本については最終仕入原価法、その他については先入先出法
- 未成業務支出金 : 個別法による原価法

#### (2) 有価証券の評価基準及び評価方法

- 関係会社株式 : 移動平均法による原価法
- その他有価証券  
市場価格のない株式等 : 移動平均法による原価法

#### (3) 固定資産の減価償却の方法

- 有形固定資産(リース資産を除く) : 定率法  
ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については  
定額法  
(主な耐用年数)  
建物附属設備 4~20年  
器具備品 4~15年
- 無形固定資産  
ソフトウェア  
社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法
- リース資産  
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法  
なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が2008年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

#### (4) 引当金の計上基準

- ①単行本在庫調整引当金は、出版後一定期間を経過した単行本について売れ残り在庫の発生による損失に備えるため、損失見込み額を計上しています。
- ②貸倒引当金は、債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については過年度の貸倒実績に基づく繰入率により、固定化営業債権については個別に回収可能性を検討し回収不能見込み額を計上しています。
- ③賞与引当金は、従業員の賞与支払いに備えるため支払見込み額のうち当事業年度の負担額を計上しています。
- ④退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しています。  
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込み額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっています。  
数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)にわたり、それぞれ発生の翌事業年度から均等償却しています。
- ⑤役員退職慰労引当金は、役員退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しています。
- ⑥受注損失引当金は、調査・コンサルティングの受注契約に係る案件のうち、当事業年度末時点で将来の損失が見込まれ、かつ当該損失額を合理的に見積もることが可能なものについて、翌事業年度以降に発生が見込まれる損失額を計上しています。

#### (5) 収益及び費用の計上基準

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第 29 号 2020 年 3 月 31 日)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第 30 号 2020 年 3 月 31 日)を適用しており、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しています。

### 2. 貸借対照表の注記

(1)有形固定資産の減価償却累計額 936 百万円

#### (2)関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

短期金銭債権 17,247 百万円  
短期金銭債務 82 百万円

### 3. 税効果会計関係

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

#### (繰延税金資産)

退職給付引当金	823 百万円
賞与引当金	533 百万円
未払費用	74 百万円
投資有価証券評価損	96 百万円
未払事業税額	45 百万円
役員退職慰労引当金	31 百万円
資産除去債務	85 百万円
減損損失	111 百万円
その他	29 百万円

繰延税金資産小計 1,832 百万円

評価性引当額 △185 百万円

繰延税金資産合計 1,647 百万円

#### (繰延税金負債)

資産除去債務に対応する除去費用 51 百万円

繰延税金負債合計 51 百万円

繰延税金資産の純額 1,595 百万円

### 4. 関連当事者との取引

(親会社及び主要株主等)

(単位:百万円)

属性	会社等の名称	議決権等の被所有割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社	株式会社 三菱UFJ銀行	被所有 直接 36.95 間接 10.09	業務の受託、業務提携関係	調査、コンサルティング、相談業務等の受託	2,826	営業未収金	551

取引条件及び取引条件の決定方針等

取引金額その他の取引条件は、市場実勢を勘案して価格交渉のうえ一般的取引条件と同様に決定しています。

**5. 1株当たり情報**

(1) 1株当たり純資産額	602,618 円 41 銭
(2) 1株当たり当期純利益	23,914 円 99 銭

以上